

- 日時：平成25年3月4日（月）17時～18時
- 場所：MEDIS-DC 会議室
- 出席者：※敬称略／順不同
康東天、山田修、清水一範、真鍋史朗、堀田多恵子（以上、JSLM）、大江和彦（JAMI）、小出博文（JACRI）、箕輪正和、小林直哉（以上、JRCLA）、山上浩志（代理；MEDIS）、
事務局：山田悦司（JSLM）、田中一宏、池田香代子（以上、MEDIS）
- 欠席者：佐守友博（JCCLS）、武隈良治（MEDIS）、平井 正明（JAHIS）、野口貴史（MHLW）

【表記についての補足】

MHLW	厚生労働省
JSLM	日本臨床検査医学会
JAMI	日本医療情報学会
JCCLS	日本臨床検査標準協議会
JACRI	日本臨床検査薬協会
JAHIS	保健医療福祉情報システム工業会
JRCLA	日本衛生検査所協会
MEDIS	医療情報システム開発センター

- 配布資料：第二回標準マスター運用協議会議事次第
資料1：提言書の作成にあたって
資料2：改善サブWG 提案書（案） 2013.03.04 改善サブWG
資料3：標準マスター共用サブWG 委員会活動報告 平成25年3月4日
- 議題
 1. 3月末提出の提言書の目次、スケジュール、作業分担
 2. 改善サブWG 提示資料について
 3. 共用化サブWG 提示資料について
 4. 運用WG の報告
 5. 次年度の体制と課題の考え方

先の合同サブWG と多くのメンバーが重複しているので、議題1、2、3については簡単に説明をお願いする。なお、議事次第に漏れているが、議題4として「運用WG の報告」を追加したうえで、議題5にできるだけ多くの時間を割きたい。（康）

■議題1

- ・資料1に沿って、事務局の山田（悦）より、提言書の目次（案）、並びに3月末までの提言書作成スケ

ジュール（案）が説明された。

本日の会議を受けて、説明資料への修正意見等は 3/7 までに提出し、各サブ WG で今週中に反映し、3/11 には事務局宛てに資料提出をお願いしたい。事務局で書式を統一するなど 3/19 までにまとめて、関係者にメールで確認してもらい、3 月末に提言書を完成させたい。

■議題 2

- ・資料 2、主に 3-④に沿って、改善サブ WG の清水委員長より説明あり。

■議題 3

- ・資料 3 に沿って、共用化サブ WG の山田委員長より説明あり。
- ・頻用コード表は今後の方向性が出せたところで終わっている感はあるが、7、8 か月という短期間で大変成果が上がったと思っている。（康）
- ・先の会議で、315 項目の検査センターデータの網羅率は 60～80%と報告があったが、1000 件超の施設で 60%以上というのは変でないか。（真鍋）
- ・1000 件は 17 桁コードで、315 項目は 12 桁コードでカウントしているため。（山上）
- ・コード表中、「JLAC10 材料あり／なし」を区別して表記している理由は何か。（大江）
- ・システム運用で考えた場合、HL7 電文では材料は別セグメントとして扱われるため、JLAC10 コード中にあってもなくてもよく、また、コード違いによって異なる材料を引いてしまう可能性があったためである。材料部分を「000」で置換したものと捉えてよい。（山田）
- ・表中に材料名称が文字列として見えるとよい。（大江）
- ・今回の資料では削除しているが、原データには情報があるので、復活させる。（山田）
- ・例えば WBC のようなポピュラーな項目に、白帯と黄帯の両方が混在するのはなぜか。（大江）
- ・診療報酬上、測定法は機械法と目視法に分類されるだけだが、収集データの中には染色法で細かく区分されたものがあつた。周囲の意見を聞いて、今回はそこまでは含めないことにした。具体的には測定法コード 301、309、310 を残し（白帯）、600 番台さらには 920 も省いてある（黄帯）。（山田）

■議題 4

- ・まだ活動できていないが、3 月中に一度、日程を調整して打ち合わせしたいと考えている。
MEDIS からリリースする体制をどうするかが主テーマだが、検査マスター運用体制にも影響する MEDIS における体制変更を待つて協議したいと思っていた。（大江）

■議題 5

- ・当初、この協議会は今年度までとしていたが、ここまで来て止めるというわけにもいかないと思っている。もし協力が頂けるならば少なくとも 1 年は継続したいと考えるがいかかが。（康）
- ・頻用コード表が使えるものになることが最重要。運用をどうするかが肝であり、それにはさらに話し

合いが必要と思う。(真鍋)

- ・検査センターの多くは JLAC10 に対してそもそも関心がなかったが、今回を契機に日衛協内に委員会を作った経緯もあり、成果のないままここで終わられるのは困る。(箕輪)
- ・流通を含めて取り組む課題と認識しているが、今取り組まないといつかまた同じことが蒸し返して出てきたときに、別なメンバーで議論を最初から始めることになりかねず、次年度に続けてやってほしい。(小出)
- ・MEDIS は日々ユーザを相手にしている。臨床検査マスターの不備については承知しているが、マスターの JLAC10 コードは JSLM 項目コード委員会から頂いており、委員会側の動きが今後どうなるのか、成果物はどのような形で維持され、公表をどうしていくのか、MEDIS マスターにはどのように反映していくのか等、次年度中にはユーザに提供するという目標のもとで具体的なスケジュールで進めていくのであれば賛成する。(山上)
- ・今止めては何にもならない。このまま引き続き進めていただきたい。(大江)
- ・皆様から賛成いただいた。せっかく力を注いで頂いたものを完成した形にしたい。それが 1 年で終わるかはわからないが、来年度にはある意味実用的なものを対外的に提供できるまでの成果を上げるようにしたい。(大江)

- ・来年度の具体的な目標設定をどの辺にするか。(康)
- ・データを集める手法、整理の流れは今年度に作れた。医療機関ベースのコード表はできたが、検査機関や一般に拡げていくのが目標であり、日衛協には検査実施件数の提示をお願いして、頻度の高い項目を追加していくことが中心になる。年度明けに日衛協へ要請を行うつもりである。(山田)
- ・日衛協には全国 200 社があるが、連絡会議には在京の 8 社が参加している。事務局にはデータはないが、範囲を限定していただければ協力できる。(箕輪)
- ・コード番号を議論する時間を十分確保するためには、項目ピックアップは前倒して、4 月に入ったらすぐに準備をするのが良い。(康)

- ・運用 WG では、頻用コード表をリリースできる形に整えてドラフト版を作り、先ずは見える形にし、キーワードを入れてコードが検索できるようにする。公開に問題なければ 7 月くらいまでには実現したい。(大江)
- ・試薬や機器情報から、JLAC10 コードが引けるような検索手段は有用に思う。(真鍋)
- ・分析物と試薬、機器の組み合わせでコードが決まるようであれば、そういう UI も考えたい。(大江)
- ・もう一つの課題は、新しい分析装置、試薬が出たときに、JLAC10 をどう迅速に符番していけるかということ。(大江)
- ・項目コード委員会では、符番依頼が届いた後は迅速にコードが振れていると思っている。自ら分析装置や試薬を探すわけにはいかないので「依頼待ち」にはなっているが。(康)
- ・項目コード委員会に依頼を出せる仕組みがあったらよいか。新試薬が MEDIS の医療材料 DB に登録されているとすれば、その DB をトリガに抽出して、依頼を出すことは可能と思われる。(大江)
- ・依頼が増えたとしても、すべての依頼に対して、新たな JLAC10 を作るわけではないので、そうしたルートができればレスポンスは早くできる。(清水)

- ・ 頻用コード表の列「運用コード案」は、二次利用を考えた時に免疫検査などを区別する目的で使用されることを想定して符番されているのか。(堀田)
- ・ 改善サブ WG での先頭 9 桁の議論にもかかわる。(真鍋)
- ・ 運用コードは JSLM の運用コード表からそのまま移行したもので、MEDIS マスターには空値の行も多い。(山上)
- ・ MEDIS が使わないのであれば、運用コードは使わずに JLAC10 コードのみで項目管理すればよいのではないか。JLAC10 より桁数の少ない運用コードで項目を一意に区別することは難しい。(康)
- ・ 康先生の意見に賛成だ。利用者側が二種類のコードがあると認識して、自分はこちら、自分はあちらというように使われてしまうことが懸念される。マッピング作業、メンテナンス作業にも効率が悪くなるし、もし桁数を減らす、粒度を減らすなら、JLAC10 コードの一部を利用すべき。(大江)
- ・ 報告書では「運用コード案」の列を省いておくのが良い。(康)

- ・ 頻用コード表の列「JAN コード」を埋めることは難しいか。(大江)
- ・ JAN コードは包装単位によって異なる。(堀田)
- ・ 埋めたい思いはあったが、区別する意味がないという意見もあって省略した。(山田)
- ・ 包装単位が違って、下何桁かの数字が違うだけではないのか。(大江)
- ・ 小出委員に調べていただきたい。(康)

- ・ 改善 WG については、今回決着がつかない点は来期も同じでないかを懸念する。(清水)
- ・ 基準範囲の共用化とカップリングしていくことを考えてはどうか。(康)

- ・ 旅費の問題から、頻繁な会議開催は難しい。(康)
- ・ Face to Face 会議は効率は良いが、集まらない方には、JAMI が 2 月から 1 会議 15 名まで使える web テレビ会議システムを契約しているので、アレンジもできる。ネット環境とヘッドセットマイクを用意してもらえれば、会議への遠隔参加が可能。(大江)

- ・ 次年度は基本的には現在の WG 体制を続ける。抽象的だが、ユーザに対してリリースできるものを作ることを来年度の目標にする。4 月中にはサブ WG 会議を一度開き、具体的に目標と計画を立ててほしい。課題の考え方については本日議論したので、それを盛り込んでほしい。24 年度はご苦労さまでした。25 年度に向けて頑張りたい。(康)

以上
(記録 山上、山田 (悦)、田中、池田)